この文書は、テンプレートファイル「s i l e n t i n p u t」の機能を体験するためのサンプル文書です。文章を読みながらその指示どおりに実際にsilentinputを使って頂くことで、その機能を短時間で大まかに把握できるようにすることを目的に作られました。順に読み進めていって下さい。

この文書は、下書き表示レイアウト（Wordのメニューから[表示]→[下書き]）で閲覧することをお勧めします。

以下に示すのは、特許明細書原稿の実施形態部分のサンプルです。適当に眺めてください。これから体験するsilentinputによる自動補完入力の内容は、この明細書の内容に基づくものです。符号が２から１６まで一つおきに使われています。

　この乗用車両２は、機体フレーム４上にエンジン６を支持するとともに、該機体フレーム４に前車軸８および後車軸１０を水平に支持した構成としている。

　後車軸１０の両端には駆動輪１２を固定するとともに、前車軸８の両端には操向輪１４を固定している。前記エンジン６の動力は、駆動伝達経路や変速装置を介して後車軸１０に伝達され、車両２が駆動される。

　車両２の運転座席には、前記操向輪１４の向きを変更させるための操向ハンドル１６が備えられている。

①まず、このサンプル文書に、silentinputのテンプレートを適用してください。やり方は、文書の適当な位置にカーソルをおいて（どこでも良いです）、[Ctrl]＋[Alt]＋[F11] を入力します（[Ctrl]と[Alt]を両方押さえながら[F11]を押します）。そして、現れるメニューから 名称未設定-1 を選択します。

[Ctrl]＋[Alt]＋[F11]でメニューが現れない場合は、[Ctrl]＋[Alt]＋[\]を試してみて下さい。

これで、silentinputを使う準備がととのいました。

②次に、実際にsilentinputを発動させてみます。下の方の行に「機体フレーム」とだけ入力されています。その最後の部分（「ム」の後ろ）にカーソルを合わせて、[Ctrl]＋[J]を入力してみてください（[Ctrl]を押さえながら[J]を押します）。なお、テンプレートの試用期限確認のダイアログが表示された場合は、[OK]をクリックします。

自動的に符号が補完されるはずです。ここでは、「４」が補完されます。

機体フレーム

これは、この文書の別の場所（冒頭部分の実施形態部分のサンプル）に「機体フレーム４」が入力されているからです。これが、要素名から符号を補完する機能です。

もちろん、自分で最初から「機体フレーム」と打ち込んで[Ctrl]＋[J]を入力しても、同じことになります。「乗用車両」と打って[Ctrl]＋[J]を入力すれば「２」が、「エンジン」と打って[Ctrl]＋[J]を入力すれば「６」が、それぞれ補完されます。

　乗用車両

　エンジン

「機体フレーム」と単独で打ち込む場合でなく、文章の流れの中で「機体フレーム」という要素名を使った場合でも、もちろん補完できます。すぐ下の行の一番最後の部分にカーソルをおいて、[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。

　エンジン６を支持する機体フレーム

③次に、符号から要素名を補完する機能を試します。下の方の行に「４」が入力されています。その後ろにカーソルを合わせて、[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。

文書の内容（冒頭の実施形態サンプルの内容）に基づいて、自動的に要素名（部材名）が補完されるはずです。ここでは、符号「４」に対応する要素名「機体フレーム」が補完されます。

もちろん、自分で最初から「４」と打ち込んで[Ctrl]＋[J]を入力しても、同じことになります。

４

④次に、要素名の一部から要素名と符号を補完する機能を試します。すぐ下の行に「機」「機体」「機体フレー」と入力されています。それぞれの最後の部分にカーソルをおいて、[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。

みな、「機体フレーム４」に補完されるはずです。

機

機体

機体フレー

⑤次に、候補を選択できるように提示する機能を試します。すぐ下の行に「操向」と入力されています。その最後の部分にカーソルをおいて、[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。

「操向」で始まる「操向ハンドル」「操向輪」の二つの要素名＋符号が、冒頭の実施形態サンプルから抽出されて表示されます。

操向

候補を選択することで、要素名＋符号を入力することができます。選択には「J」「K」のキーボード入力を使うのが簡単で、素早く入力できます。入力しないでキャンセルするには、「A」キーか「Esc」キーを押してください。

なお、候補の選択のためのキーは、上から順にJ Kのほか L ; U I 7 8 9 0 と順に割り当てられており、右手の指で簡単に入力できるように配慮されています。

⑥次に、候補の提示順についての法則を知っておきます。以下のサンプルを眺めて下さい。

　第一の部材２１　第二の部材２２　第三の部材２３　第四の部材２４　第五の部材２５　第六の部材２６　第七の部材２７　第八の部材２８　第九の部材２９

サンプルでは第一の部材から第九の部材まで、順番に並んで記述されています。

以上のことを頭においた上で、すぐ下の行に入力されている「第」の後ろにカーソルをおいて、[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。

第

「第」を先頭に含む候補の一覧が表示されるはずです。その候補の順序に注目します。

現れる候補の一覧では、「第九の部材」が一番上に提示されて、「第一の部材」が一番下になっていることが判ります（いわゆる逆順）。[Ctrl]＋[J]が入力されたときのカーソル位置に近い箇所から抜き出された候補が上側になるよう優先して提示するので、このようになる訳です。例えば、「第九の部材」は「第八の部材」よりもカーソル位置に近いので、「第九の部材」は「第八の部材」よりも上側に提示されます。これは、明細書のかなり前の部分で述べた要素名よりも、すぐ最近に述べた要素名の方が頻繁に使うだろうから、候補として上側に表示しようという配慮です。

⑦次に、「前記」「上記」等の指示語から<要素名＋符号>を呼び出して入力する機能を試します。

　ハウジング３０には主軸３１が回転自在に支持され、この主軸３１にはギア３２が固定されている。前記ハウジング３０には主軸３１と平行に変速軸３３が回転自在に支持され、この変速軸３３に回転自在に支持される歯車３４が、前記ギア３２に噛合している。

上に示したサンプルを頭に置いた上で、下の方に入力されている各種指示語の後ろにカーソルをおいて[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。カーソル位置の最も直前にある要素名＋符号が呼び出されて入力されます。

＜Ａグループの指示語＞

この

該

当該

本

ここでは、「ギア３２」が入力されます。上のサンプルの「前記ギア３２に噛合している」の「ギア３２」が、カーソルにもっとも近いからです。

以下の指示語では、[Ctrl]＋[J]を入力すると、カーソル位置の最も直前にある５つの要素名＋符号が候補として提示され、選択して入力することができます。候補の提示順は、⑥に示した法則に従います。

＜Ｂグループの指示語＞

上記

前記

前記の

前述の

各

その

候補を提示しないで<要素名＋符号>をすぐに入力するか、候補を５つ提示するか、は、指示語の内容に基づいてsilentinputが自動的に判断します。Ａグループ（例；「この」）だったら直ぐに入力、Ｂグループ（例；「前記」）だったら候補を提示、といったように動作します。

⑧次に、請求項の内容（図面の簡単な説明の内容）の自動引用入力機能を試します。

【特許請求の範囲】

【請求項１】

　断面が六角形であって、かつ、その一端に消しゴムが固定されていることを特徴とする鉛筆。

【請求項２】

　請求項１に記載の鉛筆であって、更に、その表面に滑り止め加工が施されていることを特徴とする鉛筆。

上に示した【特許請求の範囲】のサンプルを頭に置いた上で、下の方に入力されているいくつかの文字列の最後にカーソルをおいて[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。silentinputは、上記サンプルの請求項１あるいは請求項２の内容から適当な表現を自動的に作り出して、記述を補充します。silentinputは、これをフォーマットドライブと呼んでいます。作者はこの機能を、【課題を解決するための手段】【発明の効果】の欄の部分で使っています。

請求項１においては、

請求項１に示すように、

請求項１の発明は、

第１の発明は、

第１の発明では、

請求項２においては、

第２の発明は、

自動引用入力のためのフォーマットは、新規に登録したり、変更することができます。詳しくはヘルプファイルを参照して下さい。

【図面の簡単な説明】

　　【図１】

　鉛筆を示す一部断面図。

　　【図２】

　鉛筆を握った状態を示す斜視図。

同様に、上に示した【図面の簡単な説明】のサンプルを頭に置いた上で、下の方に入力されている各種文字列の後ろで[Ctrl]＋[J]を入力してみてください。silentinputは、上記サンプルの表現から適当な表現を自動的に作り出して、記述を補充します。作者はこの機能を、【発明の実施の形態】の部分で使っています。

図１は

図１は、

図２は

図２には

⑨次に、情報ウインドウ機能を試します。

文書の適当な位置にカーソルをおいて（どこでも良いです）、[Ctrl]＋[Shift]＋[J] を入力します。現れる小さい四角（コマンドウインドウと呼んでいます）の中で、「c1v」と打って、[Enter]キーを押します。「c1」は〔請求項１〕、「v」は〔表示〕という意味です。請求項１の内容が、小さいウインドウ（情報ウインドウ）に表示されます。

作者はこの機能を、請求項の内容を確認しながら実施形態を書き進めたいときに使っています。

[Ctrl]＋[Shift]＋[J]のコマンドドライブでは、様々なコマンド文字列が用意されています。どんなことができるかは、[Ctrl]＋[Shift]＋[J] を入力した後「h」と打って[Enter]キーを押し、ヘルプファイルのコマンド文字列一覧を見てみてください。

⑩次に、簡易符号表の作成機能を試します。

このやり方は簡単です。文書の適当な位置にカーソルをおいて（どこでも良いです）、[Alt]＋[J] を入力します。現れるメニューから、[特殊機能]→[簡易符号表の自動作成]を選びます。符号表が新しい文書として作成されます。

符号表で黄色でマークされている部分は、符号が同一なのに要素名が不一致である部分（要素名の揺れが検出された部分）を示します。

新しく作成された符号表のWord文書では、適当な行にカーソルをおいて[F11]を入力すると、符号表作成元の文書の<要素名＋符号>にジャンプすることができます（ジャンプ機能）。もう一度[F11]を入力すると、符号表に戻ります。

次に、符号表の空符号出力オプションを試します。作成された符号表の文書はもう不要なので閉じて、もう一回 [Alt]＋[J] を入力します。現れるメニューから、[特殊機能]→[符号表オプション]を選びます。「符号だけの行」の部分にチェックマークを付けて、[符号表を直ちに作成]をクリックしてみてください。符号だけの行を出力する範囲を問い合わせて来ますが、とりあえず、そのままOKをクリックします。新しく作成された符号表では、未使用の符号を簡単に把握できます。

⑪次に、国際特許分類の照会機能を試します。

以下の国際特許分類の欄の行の最後にカーソルをおいて[Ctrl]＋[J]を入力し、表示されるダイアログで[はい]を選択します。特許庁のJ-PlatPatのパテントマップガイダンスがブラウザで表示されます（予めコンピュータをインターネットに接続しておいて下さい）。自動的にクリップボードにコピーされた国際分類を「ＩＰＣ照会」の「分類」のところに貼り付けて「照会」をクリックすると、国際特許分類の内容を確認することができます

【国際特許分類】　Ｂ２３Ｑ　　３／１０

【国際特許分類】　Ｆ０１

⑫次に、選択肢入力機能を試します。

以下の行では、■《　と　》■　の間に、全角の縦棒「｜」で区切って、入力の複数の選択肢が記述されています。■《・・・》■のどこかにカーソルをおいて、[Ctrl]＋[J] を入力します。候補が現れて、選択した候補を置換え入力できます。

　　【補正方法】　　　　■《変更｜削除｜追加》■

選択肢は、■《　と　》■　の間に、全角の縦棒「｜」で区切るルールで、ユーザ側で自由に記述できます。文書テンプレート等で活用することができます。

⑬ヘルプファイルを見るには、文書の適当な位置にカーソルをおいて（どこでも良いです）、[Alt]＋[J] を入力します。現れるメニューから[silentinputヘルプ]を選びます。ヘルプファイルは、今まで体験した機能を含め、様々な機能の詳しい説明が記載されています。

なお、silentinputで表示されるダイアログの殆どには[ヘルプ]ボタンが付いていて、それをクリックする（又は[F1]キーを押す）ことで目的の説明をすぐにヘルプ表示できることも頭に入れておくと良いです。

⑭最後に、この文書へのsilentinputテンプレートの適用を解除します。[Ctrl]＋[Alt]＋[F11] （又は [Ctrl]＋[Alt]＋[\]）を入力して、現れるメニューの一番上の「image003」を選択します。

以上で、silentinputの機能の紹介はひととおり終わりました。皆さんが作成された明細書原稿のWord文書にもこのテンプレートを適用し（上で説明した①と同じやり方です）、今までに説明したsilentinputの機能を試してみてください。

まだ余力がある場合は、ちょっと上級になるかもしれませんが、silentinputに実装されている他の特殊機能も試してみたらいかがでしょうか。特殊機能体験サンプルのWord文書は、この文書が保存されているフォルダの中にある「特殊機能体験サンプル」フォルダの中にあります。そこでは、請求項等の番号の一括加算／減算置換えなどの便利な機能を試すことができます。

また、イメージ貼付け機能については、「イメージ貼付け体験サンプル」の中のサンプル文書を試してみて下さい。HTML生成機能については、「HTML生成サンプル」フォルダにサンプル文書が用意されています。

ありがとうございました。

　　　　　　弁理士　桂川　直己（桂川国際特許事務所）

　　　　　　サイレントテクノロジー株式会社